

2021

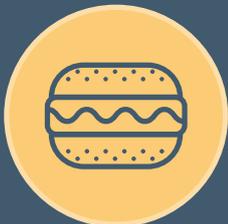
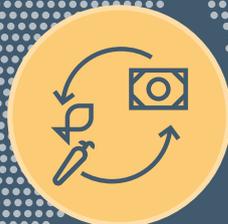
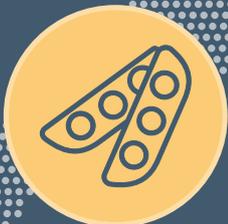
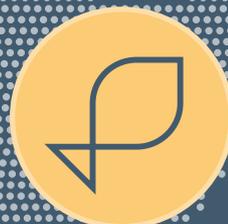
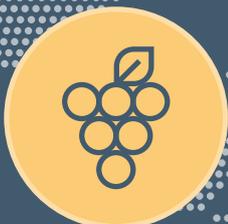
—

# 世界栄養 報告



世界の栄養状況

エグゼクティブサマリー





イギリス  
ロンドンのHENRY Healthy Familiesグループ  
プログラムでスイカを食べる子ども  
© Rebecca Fulton / HENRY

## エグゼクティブサマリー

# エグゼクティブサマリー

世界栄養報告は、世界の栄養状況に関する世界有数の独立的评价です。データに基づいて毎年作成され、進捗状況と課題を明らかにしています。本報告書は、あらゆる形態の栄養不良を根絶するために、各国政府、ドナー、市民社会組織、企業などに行動を促すことを目的としています。また、不健康な食事とあらゆる形態の栄養不良に対処することへのコミットメントに対し、ステークホルダーがアカウンタビリティを果たすことを求める重要な役割も担っています。

今年の報告書では、国際栄養目標に向けた進捗状況、不健康な食事が私たちの健康と地球に与える影響の評価、栄養分野への資金動員の評価、そして過去の「Nutrition for Growth (成長のための栄養-N4G)」におけるコミットメントの報告状況に関する包括的な概要を紹介しています。

本報告書では、いくつかの進歩にもかかわらず、食事は依然として不健康のままで、環境への負荷が増大していること、そして受け入れがたいレベルの栄養不良が続いていることを明らかにしています。現在のペースで継続することの人的、環境的、経済的コストは非常に大きく、行動を起こさなければはるかに高い代償を払うことになるでしょう。新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は問題を悪化させていますが、本報告書は、それがより大きな問題の一部に過ぎないことを示しています。

しかし、私たちは希望を持ち続けています。プラネタリーヘルスを維持しながら、栄養不良を根絶する健康的で持続可能な食事は実現可能です。私たちは、アカウンタビリティを向上させ、より良い栄養の成果を推進するために、そして現在栄養に投資されているよりもはるかに多くの資金を動員するために必要とされるエビデンスとツールを、かつてないほど備えているのです。私たちは直ちに、栄養に関するすべての分野で進歩を加速し、私たちが妨げているシステムや構造を改革しなければなりません。今年にはN4Gの「行動の年」であり、グローバルからローカルまで、またあらゆるセクターや国のステークホルダーが、栄養が行き届いた豊かな人々と地球のために必要な行動を約束する絶好の機会です。

## 主な結果

### 1. 多くの国で国際栄養目標を達成するためには、大きく進捗を加速させることが必要です。

世界的に見ると、母親と乳幼児の6つの栄養目標のうち、発育阻害、消耗症、低出生体重、貧血、子どもの過体重の5つの目標で、**進捗が遅れています**。また、食塩摂取、高血圧、成人肥満、糖尿病など、食事関連の非感染性疾患（NCD）目標の達成の進捗が遅れています。

**進捗がないために、受け入れがたいレベルの栄養不良が続いています**。世界では、1億4,920万人の5歳未満児が発育阻害、4,540万人が消耗症、3,890万人が過体重です。また全ての成人男女（22億人）の40%以上が過体重または肥満です。**しかし、有望な進捗を見せている国もあります**。例えば、評価対象となった194か国のうち、105か国は子どもの過体重の目標達成の進捗が順調であり、また4分の1以上の国が発育阻害と消耗症の目標達成を順調に進めています。しかし貧血の指標では、161か国において進捗がないか、悪化が示されています。

**食塩摂取の削減、および成人肥満の増加を食い止める目標達成の進捗が順調な国はありません**。アフリカ地域では、食事関連の非感染性疾患の目標のいずれにおいても達成が順調な国はなく、高血圧と糖尿病の両方における目標達成の進捗が順調な国は、欧米の一部の高所得国に限られています。不健康な食事とあらゆる形態の栄養不良に対抗するために、すべての関係者が取組みを強化し、強力な行動を起こす必要があります。

## 世界中で、栄養目標を達成できそうな国が少なすぎます

● 進捗が順調 ○ 進捗が順調でない、または不明



## 不健康な食事と栄養不良をなくすために行動変革が必要です

主要な国際目標や体系的なモニタリングにおいて、食事は健康や環境に影響を与えるにもかかわらず、除外されています。現行の目標では、あらゆる形態の栄養不良の根本的な原因である、不健康な食事とその質を明示的に取り上げていません(食塩摂取の指標を除く)。さらに、健康と発達にとって重要な微量栄養素欠乏に関する国際目標は設定されていません(貧血を除く)。また、子どもと青少年の栄養不良に関する具体的な目標もありません。国際機関、国、そしてすべての主要なステークホルダーが、不健康な食事についての認識、目標化、モニタリングを改善するために、埋めるべき明らかなギャップが生じています。

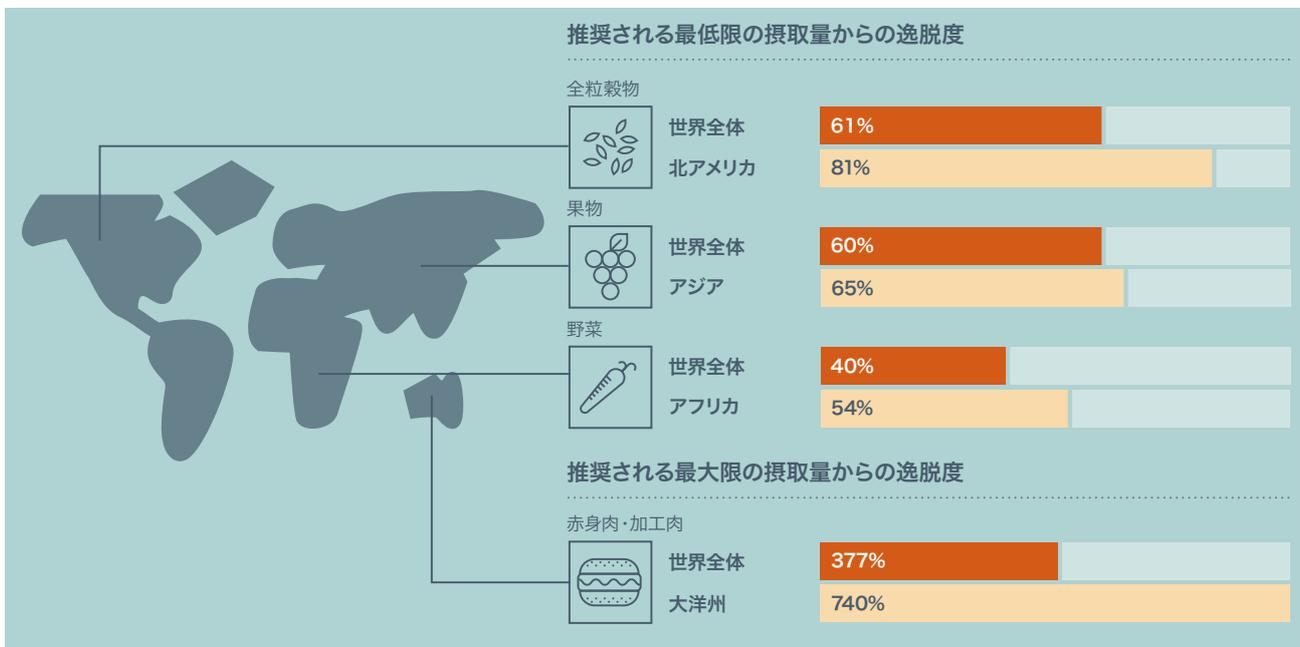
COVID-19のパンデミックの影響は、さらに目標達成に向けた進捗を遅らせています。パンデミックの結果、世界では推定1億5,500万人が極度の貧困状態に追い込まれており、肥満やその他の食事関連の慢性疾患を持つ人々はCOVID-19に対して、より脆弱です。このことが、国際栄養目標を達成するための課題になるのは明らかです。

## 2. 私たちの食事は、私たちの健康と地球への悪影響を増加させています。

世界の食事は健康的とは言い難く、過去10年間で改善されていません<sup>(1)</sup>。果物と野菜の摂取量は、健康的であるとされる推奨レベルの1日あたり5サービング（それぞれ60%と40%）を依然50%ほど下回っており、豆類とナッツ類の摂取量は、それぞれ推奨レベルの1日2サービングを3分の2以上下回っています<sup>(2)</sup>。一方、赤身肉や加工肉の摂取量は増加傾向にあり、1週間あたりの推奨値の上限である1サービングの5倍近くに達しています。また、いかなる量も推奨されない砂糖入り飲料の摂取も増加しています。

地域によって多少の差はあるものの、健康的な食事の推奨を全て満たしている地域はありません。低所得国では、果物や野菜などの健康増進に役立つ主要な食品の摂取量が依然として最も少なく、低体重が最も多くなっています。一方、高所得国では、赤身肉、加工肉、乳製品など、健康や環境への影響が大きい食品の摂取量、ならびに過体重や肥満が最も多くなっています。

### 健康的な食事のための推奨を満たしている地域はありません



人と地球の健康的な未来のために、不健康な食事と栄養不良に持続的に対処する必要があります

---

**食事関連の疾患および死亡率は、ほとんどの地域で増加しています。**不健康な食事に起因する死亡率は、2010年以降、人口増加を上回るペースで15%増加しており、現在、非感染性疾患による成人死者数は1,200万人を超えています。これは、毎年の成人死者数の4分の1（26%）にあたります。食事リスクに起因する早期死亡の割合は、北アメリカとヨーロッパで最も高く（それぞれ31%）、最下位のアフリカ（17%）でも特筆すべきレベルです。2030年までに非感染性疾患による早期死亡を減らすというSDGsの目標達成に向けて進捗が順調な地域はありません。どの地域でも、食事リスクに対応し、食事関連の非感染性疾患による死亡を減らすという喫緊の課題に直面しています。

**私たちの食事が地球に与える有害な影響は憂慮すべきで、増加の一途をたどっています。**新しい推計によると、世界の食料需要は現在、温室効果ガス排出量全体の3分の1以上（35%）を生み出し、環境資源の使用量も増加しています。2010年と比較すると、食糧需要による環境への負荷は14%も増加しており、動物由来の食品が温室効果ガス排出と土地利用の大部分を占めています。北アメリカの食事は環境への負荷が最も大きく、アフリカやアジアの食事は環境への負荷が最も小さいことがわかっています。しかしどの地域も、食事とフードシステムに関連した健康と環境への負担を抑えることを目的とした一連のSDGsの目標の進捗が順調ではありません。例えば、地球温暖化を2°C未満に抑えたいとして、すべての地域で実践されれば、持続可能なレベル以上の好影響をもたらす（環境負荷の低い）食事がすでに存在しています。地球の健康を維持しつつ、あらゆる形態の栄養不良に対処する健康的で持続可能な食事を実現するためには、すべての地域で大規模な食事の変革が必要なのです。

### 3. 資源が減少する一方で、不健康な食事や栄養不良に対処するための財政的コストは上昇していますが、行動を起こさない方が、はるかにコストがかかります。

**栄養目標を達成するために必要な追加資金は、COVID-19の影響もあり大幅に増加しています。**入手可能なデータを用いて、発育障害、消耗症、母親の貧血、母乳育児の4つの国際栄養目標に対して、栄養に特化した資金ニーズを推定しました。COVID-19の影響を考慮すると、これら4つの目標を達成するため2020年から2030年にかけて年間平均108億米ドルの追加資金が必要となります。これまでの試算（2016年～2025年）では、年間70億米ドルの追加資金が必要とされていました。

これらの追加コストは、栄養に配慮した介入ニーズや、肥満や食事関連の非感染性疾患を含むすべての国際栄養目標の達成も含めれば、さらに増加する可能性があります。2030年までにSDGsの目標2を達成するためのコストも膨大であり、栄養に特化した介入、栄養に配慮した介入の両方のニーズを満たすためには、年間約390億～500億米ドルが必要となります。**これにより、栄養への投資が社会にもたらす経済的利益は、2030年までに年間5.7兆米ドル、2050年までに年間10.5兆米ドルに達する可能性があります。**

## 栄養不良に対処するための財政的コストは上昇しています



## しかし、栄養に投資することで社会にもたらされる経済的利益は、2030年までに年間5.7兆ドルに達する可能性があります

従来の栄養分野の資金源を維持しつつ、革新的な民間資金を拡大する必要があります。政府開発援助と国内の資金調達の見通しは、COVID-19による悪化で減少傾向を示唆しており、パンデミック前のレベルに回復するのは10年後になると予想されています。

栄養分野では、革新的な資金調達方法を活用する大きなチャンスがあります。教育、保健、気候変動など、顕著な進捗が見られる他のセクターから学ぶことができますし、学ぶべきです。また、民間セクターは、栄養分野において最も未開拓の資金源です。民間セクターの資金は、拡大することができますし、また拡大すべきです。民間セクターには、気候変動に配慮し、持続可能で、企業の社会的責任や食品会社の行動を超えた、いくつかの実現可能な方法があります。

既存の栄養分野における投資の効率性と有効性を向上させることで、利用可能な資源が栄養不良に与える影響を増加させることができます。同じ資金でより多くの栄養不良の人々を減らし、より多くの命を救うために、各国が利用可能な資金の配分を最適化するためのツールがあります。

## 4. Nutrition for Growth (N4G) のモニタリングでは、コミットメントの実現と進捗の測定における課題が浮き彫りになっています。

2013年と2017年のN4G<sup>(3)</sup>でのコミットメントの実現に向けた積極的な前進がある一方で、各国は財政面とインパクト面での目標達成に苦勞しています。2020年の報告書によると、ドナーと市民社会組織の3分の2以上が、財政面でのコミットメントを達成した、または達成に向けて順調であると報告しています。また、ドナー（63%）と市民社会（76%）の非財政面のコミットメント目標の大部分は、順調に進んでいるか、既に達成していました。一方、財政面でのコミットメント目標のうち、達成した、あるいは順調に進んでいると答えたのは42%の国のみで、41%の国がインパクト面のコミットメント目標の達成に向けて順調でしたが、達成済みであるとの報告はありませんでした。COVID-19は課題をさらに悪化させており、主に資源の流用により、43%の国別コミットメント目標の達成が著しくパンデミックの影響を強く受けていると報告されています。コミットメント達成に向けた、特に各国の関係者による資金動員やインパクトに関連する取り組みを強化しなければならないことは明らかです。

## 2020年、各国は財政的コミットメントの達成に苦労しています

● 達成または順調に進捗している ● 進捗なし、または不明

### 各国政府

各国政府の栄養に関する財政的コミットメントの10件に4件程度は、達成または順調に進捗していると報告されています。



### 市民社会組織

市民社会組織が行った栄養に関する財政的コミットメントの10件中約7件が達成されたか、または順調に進捗していると報告されています。



### 国連機関

国連機関が行ったすべての栄養に関するコミットメントは、達成されたか、または順調に進捗していると報告されています。



## 今年の「栄養行動の年」において、意思決定者はNutrition for Growth (成長のための栄養-N4G)を栄養へのコミットメントを大幅に更新する機会ととらえるべきです

過去のN4Gのコミットメントでは、食事および食事関連の非感染性疾患は注目されませんでした。ステークホルダーが約束した383件のコミットメント目標のうち、136件が国際的な母子栄養 (MIYCN) の目標と関連しています。過去のサミットでの優先順位が低かったことが主な理由ですが、食料生産や食の質に焦点をあてたコミットメント目標は17件のみで、食事及び食事関連の非感染性疾患の目標はありませんでした。しかし、2021年12月に東京で開催されるN4Gサミット (東京栄養サミット) では、食と健康的な食事が重要な議題として取り上げられることが期待されます。

進捗の測定には大きな課題がありましたが、新しい「栄養アカウンタビリティ・フレームワーク」は前進をもたらします。過去のN4Gのコミットメントのうち、SMART基準<sup>(4)</sup>を満たしているのは29%に過ぎず、達成度を評価することは困難です。進捗状況はステークホルダーが自己申告するため、不完全な報告や偏った報告が行われる可能性があります。これまでの、進捗状況の全体像を明確に把握したり、時系列で比較したりすることができませんでした。しかし2021年9月に発表された世界栄養報告では、これらの課題に取り組む、N4G「行動の年」やそれ以降の新たなコミットメントの登録を支援するために「栄養アカウンタビリティ・フレームワーク」を設定しました。これは、SMARTな栄養コミットメントを行い、進捗を促進するための栄養行動をモニタリングするための、世界初の独立した包括的プラットフォームです。

## 栄養不良をなくし、地球を守るために、健康的で持続可能な食事を実現します

本報告書の結果によれば、行動すべきいくつかの明確な分野があります。求められる変化は大きいものの不可能ではなく、影響は深刻なため、今、私たちは何としてでも行動しなければなりません。私たちは、3つの主要な分野での行動を提案します。

---

## 1. 不健康な食事と栄養不良を終わらせるためには、取組みと資金動員を変革させる必要があります。これにより社会的・経済的に大きな利益を得ることができます。

- すべての関係者が、N4G「行動の年」における力強くSMARTなアクションに強くコミットし、食事に関連する目標をそのコミットメントに盛り込むことが急務です。
- より多くの資金動員が必要であり、さもなければ必要な変革を達成することはできません。外部および国内の従来の栄養分野の資金は維持・増額されなければならない、他の資金源として、特に革新的資金や民間資金の増強が必要です。
- 各国は、利用可能な資金の効果を最大化するために、投資の効率性と有効性を促進する新たなツールを活用するための支援を強化する必要があります。

## 2. 不健康な食事や栄養不良は、すべての人に健康的な未来をもたらすために、包括的かつ持続的に対処することが可能であり、またそうすべきです。

- 人間と地球にとって健康的で持続可能な食事を実現するためには、フードシステムを変革し、健康に良い食品の摂取量を増やし、動物性食品を減らすための政策的な取組みが急務です。
- 国際的な栄養モニタリングは、微量栄養素欠乏、飢餓、過体重などの目標に加えて、食事と健康の改善を主要な目標に組み込む必要があります。
- ステークホルダーとコミットメント作成者は、すべての人にとって衡平で健康的かつ持続可能な食事を支える栄養の行動に、特別な注意を払わなければなりません。

## 3. より良いデータ、アカウンタビリティの向上、体系的なモニタリングが、必要な進歩を確認し、確実に実行していくための鍵となります。

- 栄養分野の現状を十分に理解し、効果的な行動を周知し、影響を確実に測定・モニタリングするためには、資金動員に関するものを含め、より良質で詳細なデータが必要です。
- 健康的で持続可能な食事と良好な栄養状態を促進する役割を果たせるすべてのステークホルダーは、利用可能な支援を活用し、「栄養アカウンタビリティ・フレームワーク」に登録して、SMARTな栄養コミットメントを約束することで、そのインパクトが確実に測定されるようにする必要があります。
- 持続可能で健康的な食事は、栄養不良への対処と環境保護におけるその重要性が認識され、国際栄養目標に組み込まれ、モニタリングされるべきです。

---

# 注釈

## エグゼクティブサマリー

- (1) Global Dietary Database 2021年版
- (2) EAT-Lancet Commission on Healthy Diets from Sustainable Food Systemsが開発した、健康的で持続可能な食事の推奨
- (3) Nutrition for Growth (成長のための栄養-N4G) は、各国政府、ドナー、企業、市民社会組織など、すべての関係者を結集し、不健康な食事とあらゆる形態の栄養不良への対処を加速させるための国際的行動です。世界栄養報告は、2013年の第1回N4Gサミット後に、政府、ドナー、市民社会、国連、企業など100のステークホルダーが行ったコミットメントを毎年追跡し、そのインパクトへの反映を評価する仕組みとして初めて考案され、この役割は現在も続いています。
- (4) SMART: Specific, Measurable, Achievable, Relevant and Time-bound (具体的、測定可能、達成可能、適切、期限付き)

世界栄養報告 (GNR) の目的は、あらゆる形態の栄養不良をなくすために、より大きな行動を促すことです。

世界栄養報告は、政府、ドナー組織、市民社会、多国間機関、ビジネスセクターのハイレベルなメンバーからなるステークホルダー・グループと、栄養分野の世界的な専門家からなる独立専門家グループで構成されるマルチステークホルダー・イニシアティブです。2013年の第1回「成長のための栄養イニシアティブ (N4G)」サミットの後、政府、ドナー、市民社会、国連機関、民間企業など100のステークホルダーによるコミットメントを追跡するメカニズムとして構想されました。

現在では、入手可能な最高のデータと詳細な分析を用いて、進捗と課題に光を当て、行動を喚起する年次報告書を通じて、世界の栄養状況に関する世界有数の独立的評価を提供しています。

本報告書は、国別栄養プロフィールとオンラインのN4G追跡ツールの提供によって補完されています。栄養プロフィールは、世界のすべての地域と国の栄養状況の概要を提供し、毎年利用可能な最新のデータで更新されます。N4G追跡ツールは、過去のN4Gサミットで行われた栄養に関するコミットメント達成に向けた進捗状況について、コミットメント作成者から報告された最新データを提供するものです。

また、世界栄養報告は世界初の独立した「栄養アカウントビリティ・フレームワーク」を作成し、2021年9月に設立しました。これは、すべてのステークホルダーがSMARTな栄養コミットメントを登録し、栄養のアクションをモニタリングするためのガイダンスと支援を備えた包括的なプラットフォームで構成されています。これは、2021年のN4Gサミット(東京栄養サミット)で約束されるコミットメントの公式メカニズムであり、サミットのホスト国である日本政府をはじめ、世界保健機関、Scaling Up Nutrition (SUN)、UNICEF、USAIDなどの主要ステークホルダーの支持を得ています。

詳細については、[www.globalnutritionreport.org](http://www.globalnutritionreport.org) をご覧ください。

本エグゼクティブサマリー日本語訳のレビューにあたっては、独立行政法人国際協力機構 (JICA) とセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) の協力を得ました。